平成２６年度　徳島県立川島高等学校「学力向上実行プラン」

１　本年度の重点目標

①単位制を活かした中高一貫教育を推進するとともに，確かな学力の向上を図る。 ②個別面談の充実や，朝の学習，家庭学習など自主学習の促進に努める。

２　学力向上のための実行プラン

（国語）

年次	学科	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評価
1	普通	・生徒の習熟度に応じた課題を厳選し，個々の学力の向上に努める。 ・家庭での学習習慣の定着を図る。	・わかりやすい授業を実践し，基礎学力の向上を図る。 ・校外模試の偏差値 50 以上の人数を平均 30 人以上にする。 ・定期考査の欠点者を０にする。	・授業ノート点検時に，学習方法やノートの取り方について，個別にアドバイスを行う。 ・週末課題で，新たな単元への準備と，既習事項の定着を図る。 ・漢字や文法の小テストを適宜実施する。 ・質問タイムを活用し，個別指導を充実させ，基礎力の補強，応用力の強化に努める。	４　３　２　１
2	普通	・成績上位者と下位者の学力差は一層大きくなっているため，それぞれの学力を伸ばすための課題や小テスの工夫，授業の質の向上に努める。	・自主的・主体的に学習に取り組む意欲を育成する。 ・校外模試の偏差値 50 以上の人数を平均 30 人以上にする。 ・定期考査の欠点者を０にする。	・わかりやすい授業を実践する。 ・単元ごとの小テストをこまめに実施し，既習事項の定着を図る。 ・週末課題の内容を工夫したり，予習復習を徹底させ，学習習慣を身につけさせる。	４　３　２　１
3	普通	・生徒の進路の希望に添いながら基礎学力の定着と応用力を育成し，個々の学力の向上に努める。	・校外模試の偏差値５０以上人数を平均３０人以上にする。 ・定期考査の欠点者を０にする。	・授業のノート作りが自分で考えながらできているか，個別にアドバイスを行う。 ・基礎学力の定着と共に興味関心を広げられるよう週末課題や補習で強化する。	４　３　２　１

（地歴・公民）

年次	学科	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評価
1	普通	・現代社会について多様な角度から主体的に考察させるとともに基礎学力の向上を図る。	・定期考査の欠点者を０にする。 ・課題の提出を 100 %にする。 ・単元ごとに新聞等を利用し，現代社会への興味 ・関心を高める。	・学習方法についての導入教育を行う。 ・新聞等を利用し，現代社会への関心を高め，主体的・多角的に考える授業を工夫しする。 ・単元終了時に小テストを実施し，基礎・基本の定着を図る。	４　３　２　１
2	普通	・諸資料を主体的に考察し，歴史や地理への関心を高め	・定期考査の欠点者を０にする。 ・課題の提出を 100 %にする。	・単元ごとの小テストを実施し，既習事項のより一層の定着を図る。 ・新聞・図像資料・音声資料を利用しわかりやすい授業を実施する。	４　３　２　１

		る。	・「なぜ？」と多く問いかけ，深く考察させ歴史的思考力を養う。	・定期考査ごとにノートの提出・確認を徹底させる。	
3	普通	・現代社会・国際社会で主体的に生きる実践的な力を養う。	・定期考査の欠点者を０，課題提出を 100 ％にする。 ・昨年度より模試平均点を上げる。	・進路に応じた適切な課題を与える。 ・個別指導を充実させる。 ・模試対策を充実させる。	4　3　2　1

（数学）

年次	学科	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評　　価
1	普通	・模試では，小問集合や大問の(1)などができていない生徒が多いので，もう一度基本の習熟を図るとともに 応用力の育成も目指したい。 ・毎回固定された者の課題が提出できていないため，粘り強く期限内に提出できるよう指導していく。 ・継続的に課題に取り組ませ，家庭での学習習慣の定着を図る。	・定期テストの平均点を 50 点以上欠点者を 0 にする。 ・校外模試の偏差値 50 以上の人数を平均 30 人以上にする。 ・課題の提出を100%にする。 ・家庭学習時間 1 時間以上にする。	・週末課題で，既習事項を復習させ，小テストを行うことで基礎・基本を定着させる。小テストの成績が目標に達していない生徒には，再テストを行うことで基礎学力の定着を図る。 ・サタディサポートを利用して，模試の過去問を解かせることにより，応用力を身につけさせる。 ・生徒にとって負担加重にならないような分量の課題を与える。 ・期限内に提出できなかった者や，内容が不十分であった者に対しては，個別にその都度，注意を促し，課題に取り組む意識や家庭学習の習慣をつけさせる。	4　3　2　1
2	普通	・問題演習が不足していたので，すべての生徒にもう１ランク上の学力を身につけさせるため，課題や補習等で補強を心がけたい。 ・学力の基礎基本の定着を確実にするために，生徒の習熟度に応じた週末課題の内容の吟味に心がける。 ・継続的に課題に取り組ませ，家庭での学習習慣の定着を図る	・定期テストの平均点を 50 点以上，欠点者を 0 にする。 ・校外模試の偏差値 50 以上の人数を平均 30 人以上にする。 ・課題の提出を100%にする。 ・家庭学習時間 1 時間以上にする。	・週末課題で，既習事項を復習させ，小テストを行うことで基礎・基本を定着させる。小テストの成績が目標に達していない生徒には，再テストを行うことで基礎学力の定着を図る。 ・サタディサポートを利用して，模試の過去問を解かせることにより，応用力を身につけさせる。 ・生徒にとって負担加重にならないような分量の課題を与える。 期限内に提出できなかった者や，内容が不十分であった者に対しては，個別にその都度，注意を促し， ・課題に取り組む意識や家庭学習の習慣をつけさせる。	4　3　2　1

3	普通	・生徒の進路希望に添った教科指導に心がけたが，より効率的な個人指導と全体指導の実施方法について吟味していきたい。 ・生徒の進路希望に添った教科指導に心がけたが，より効率的な個人指導と全体指導の実施方法について吟味していきたい。	①マーク模試の偏差値 50 以上の人数を平均 30 人以上にする。 ②課題の提出を100%にする。	①補習やサタディサポートを利用して，問題演習に取り組ませ応用力を身につけさせる。 模試の結果を分析し，課題の克服に向けて授業の工夫・改善を図る。 ②生徒の進路希望実現のための適切な課題を与える。期限内に提出できなかった者や，内容が不十分であった者に対しては，個別にその都度，注意を促し，課題に取り組む意識や家庭学習の習慣をつけさせる。	4　3　2　1

（理科）

年次	学科	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評　価
1	普通	・生徒の授業評価ｱﾝｹｰﾄの結果「興味・関心度」が 2.9 ／ 4 である（昨年と同値比）。さらに理科を好きにさせる工夫が必要。 ・「内容の理解度」の生徒の自己評価が 2.7 ／ 4 である（昨年度と同じ値）なので授業改善を図る事が必要。	・観察・実験などを行い科学への関心を高める。 ・授業に真剣に取り組む姿勢を育て基礎学力の向上を図る。 ・定期考査の欠点者を 0 にする。	・学習方法についての導入教育を充実させる。 ・観察・実験を単元毎に 1 回以上行う。 ・単元終了時に小テストを実施し基礎学力の定着を図る。 ・適切な課題を与える。 ・質問タイムを活用し，個別指導を充実させる。 ・課題の提出を 90 %以上にする。 ・各講座で年間 30　回以上質問をさせる。	4　3　2　1
2	普通	・生徒の授業評価ｱﾝｹｰﾄの結果「興味・関心度」が 3.2 ／ 4 である（昨年度より 0.1 下がった）。理科を好きにさせる工夫が必要 ・「内容の理解度」生徒の自己評価が 3.1 ／ 4 である（昨年度と同じ）。.さらに授業改善を図ることが必要。	・観察・実験などを行い科学への関心を高める。 ・授業に真剣に取り組む姿勢を育 t て基礎学力の向上を図る。 ・定期考査の欠点者を 0 にする。 ・わかりやすい授業の実践。	・学習方法についての導入教育を充実させる。 ・観察・実験を単元毎に 1 回以上行う。 ・単元終了時に小テストを実施し基礎学力の定着を図る。 ・適切な課題を与える。 ・質問タイムを活用し，個別指導を充実させる。 ・課題の提出を 90 %以上にする。 ・各講座で年間 30　回以上質問をさせる。	4　3　2　1
3	普通	・生徒の授業評価ｱﾝｹｰﾄの結果「興味・関心度」が 3.5 ／ 4 である（昨年度と同値）。「内容の理解度」生徒の自己評価が 3.5 ／	・授業に真剣に取り組む姿勢を育て実践的な学力を身につけさせる。 ・定期考査の欠点者を 0 にする。	・基礎演習，実践演習の解法を工夫する。 ・個別，少人数指導を充実させる。 ・適切な課題を与える。 ・質問タイムを活用し，個別指導を充実させる。 ・課題の提出を 90 %以上にする。 ・各講座で年間 30　回以上質問を	4　3　2　1

		４だった（昨年度より 0.1 上がる）。 ・良い評価であるがさらに受験に必要としない生徒たちの興味・関心を高める工夫を行うことが必要。		させる。 ・演習問題を解く時間を昨年比 10％増。	

（英語）

年次	学科	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評　　価
1	普通	・難解な項目にとらわれすぎずコミュニケーションを重視した授業展開をする。	・基礎基本の徹底とコミュニケーション能力の向上を図り英検３級以上の取得者を５０名以上にする。	・毎週英単語テストを行う。 ・コミュニケーション活動を各レッスンごとに少なくとも１つは取り入れて４技能を高める工夫をする。 ・英検対策補習を実施する。	４　３　２　１
2	普通	・基本を重視したコミュニケーションに必要な学習活動を行う。	・題材に関心を持たせ、基本的なコミュニケーション能力を養い、英検準２級の取得者を２５名以上にする。	・毎週英単語テストを行う。 ・幅広い分野に関心を持たせ、コミュニケーションに必要な英語表現や読解の学習を基本から徹底する。 ・英検対策補習を実施する。	４　３　２　１
3	普通	・基本的なコミュニケーションに必要な学習活動を行い，生徒の進路実現のための実践力を養う。	・進路実現に向けた実践力を養うため，英検準２級以上の取得者を２５名以上にする。	・毎週単語テストを行う。 ・実践的コミュニケーションを意識し，実際に起こりうる場面を想定し，簡単な英文が書けるようにする。 ・英検対策や生徒の進路に合わせた個別指導を充実させる。	４　３　２　１

３　全体評価

４　学力向上検討委員会構成

	職名・校務等担当名	氏　　名
管　理　職	校　長 教　頭 教　頭	町口　雅治 山村　啓治 桂　　啓人
学力向上推進員	指導教諭	森　万里子
委　　員	教　諭 教　諭 教　諭 教　諭 教　諭 教　諭 教　諭 教　諭 教　諭 教　諭	岡田　善史 細井　直子 大久保　道弘 多田　光広 新開　文子 鳴川　幸恵 林　　英樹 見立　功子 美﨑　　毅 志磨　正師